

# 地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 165件

2009年11月



こどもたちに人気のカメが帰ってきました

## 在宅医療は病院全体の取り組みです

重症心身障害児施設長 山下 純正

「家ほど良いところはない。」入院された経験のある方ならば誰もが抱く感想だと思います。こどもたちも同じで、制約の多い病院生活から解放され、病気があっても家庭こそ人間本来の生活の場だと思います。そのような希望をかなえるため、近年在宅医療が推進されてきました。在宅中心静脈栄養法、在宅自己腹膜灌流、在宅酸素療法、そして在宅人工呼吸療法などです。特に在宅人工呼吸療法は高度な医療機器を必要とし、ご家族に取扱いに慣れていただかなければなりません。数ヵ月かけてトレーニングを行い、院内外泊や院外外泊を繰り返し、退院の日を迎えます。当センターでは担当医だけでなく、多くのスタッフが集まり安全性は大丈夫か、家族をどのように支えていかなど、話し合いを繰り返していきます。それこそ病院全体で取り組んでいるとあってよいでしょう。



家庭で過ごすためには、地域での医療や福祉サービスを受けますので、入院中から母子保健室が中心となって多職種で、地域で家族を支える体制づくりをしていきます。その一環として、退院後しばらくして、一時的な入院を行い在宅生活の評価と家族の休息の時を持つようにします。どのように病気や障害のあるこどもを地域で支えていくかという視点は、病院の医療と平行して行われる必要があります。

重症心身障害児施設では1週間から1ヵ月程度の短期入所事業を行っております。これも重症児を育てておられるご家族を支えるためです。利用される主な理由は、介護の休息、次子の出産、病気治療そして冠婚葬祭の出席などです。施設側としては毎日違ったお客さんが訪れる宿泊所のようなのですが、在宅生活を営む上で、なくてはならない場だと思っています。家庭で、家族にかわいがられて過ごすこどもをみると、こんなにうれしいことはないのです。



## 口唇口蓋裂における最新の集学的治療

形成外科 小林 眞司

当科の特徴の一つである口唇口蓋裂は、出生約 500 人に 1 人という頻度の高い疾患であり、神奈川県では年間出生約 8 万人に対し約 160 人生まると推測されます。当センターでの年間手術数は約半数に当たる約 70～90 件であり、独自の治療システムにより関連各科と協同して集学的治療を行っています。当科では、「術前顎矯正」、「顎裂部の歯肉骨膜形成術」、「顎裂部への多血小板血漿移植術」「口唇・顎・口蓋同時形成術」など本邦ではほとんど実施されていない最新の術式を駆使して治療を行っています。これらにより従来、多くの手術回数を要していたお子さんが、1-2 回の最小限の手術回数で済むようになってきています。特に、熟練した矯正歯科医により行われる「術前顎矯正」は、上顎にプレートを装着することにより外鼻・歯槽形態を整えることができる極めて有効な手段です。その後の手術に良好な結果をもたらしますが、組織の可塑性がある生後 1-2 ヶ月までに行う必要があり、できるだけ早めの御紹介(できれば生後 2 週間以内)をお願いしています。

近頃では胎児診断される方も多く、両親への精神的サポートとわかりやすい情報提供を心掛けています。



## 地域医療連携活動 — 新生児科での取り組み

新生児科 大山 牧子

昨今は、複合的な要因のため、中等症の新生児医療ができる施設がぐっと減り、その影響で当院新生児科の入院数は 2007 年までは平均 300 人/年でしたが、2008 年からは 400 人/年に増加しました。NICU ベッド数は 15 床から 21 床に増えましたが、GCU ベッドが減ったため、地域病院への転院をお願いする数がどんどん増えています。当院では転院した患者さんのうち、出生体重 1500g 未満のお子さんは、退院後当院外来に紹介していただき、9歳までのフォローアップを行っています。

昨年からは、転院した患者さんに関する医療面での情報交換をして、お互いの診療内容をよりよくする試みを始めました。具体的には、当科の医師が昨年、近隣の中核病院で意見交換会とミニレクチャーを行いました。また、各地域病院の医師とメーリングリストを作成し当院での講義などのお知らせを始めました。

また、当科の医師らが中心となって行ってきた神奈川県版新生児蘇生講習会も軌道に乗りました。今年から県産婦人科医会主催の講習会も始まり、お手伝いしています。どの施設で生まれた赤ちゃんも、適切な初期の蘇生ができることが、よりよい予後のスタートですので、この事業は大いに意味があると思います。

## 「みんなで取り組む感染対策」を目指して



感染管理認定看護師 陸川 敏子

こども医療センターでは、感染制御チーム(ICT)が実働を担当し感染対策を推進しています。感染管理認定看護師の主な活動は、感染対策に関する来院者へのお願いや職員向けの情報提供、感染対策を進める準備やより簡便で確実な感染対策の方法の提示などを行います。新型コロナウイルス対策では情報収集を行い国の方針、県の方針に従い当院での対応を検討し、必要な感染対策を推進しました。

安全フォーラムでは感染対策のコーナーで当院の感染対策を紹介しました。そして、今年1月から「安全・感染に関する情報」のコーナーをいただき、感染に関する情報を提供しています。立ち止まって読んでいただいている光景を見ると「よしっ！」と心でつぶやき、嬉しく思っています。

これから、冬に流行するRS感染症やウイルス性胃腸炎、季節性・新型コロナウイルスなど目白押しです。感染対策の基本は、手洗い・咳エチケット・うがい・栄養と休息この5項目です。この5項目は、みんなに共通して大切なことです。医療者はもちろん家族の方を含むみんなで感染防止に取り組み元気に冬を過ごしたいと考えて活動しています。

手洗い



咳エチケット



うがい



栄養



休息



## 医療機器に親しみ、在宅療養支援の充実を目指します



—在宅医療機器勉強会の開催—



地域医療連携室 萩原 綾子

最近、高度な医療機器を用いた【ハイテク医療の在宅化】が進んでいるといわれています。私たち医療従事者は医療ケアを提供すると共に医療機器に関するケアも支援する役割を担っています。とはいえ、(器械はちょっと苦手)(家族から知らないことを尋ねられたらどうしよう)などの意見もあり、実際の在宅医療機器に触れる機会も少ないことから在宅医療機器勉強会を企画、開催いたしました。第1回在宅酸素療法、第2回鼻マスク式人工呼吸療法(NPPV)、第3回経管栄養用ポンプ、第4回気管切開式人工呼吸療法(TPPV)で各回80~100名の参加者があります。医師や看護師だけでなく、医療相談、医療安全、事務等の部門からも参加があり、実際の機器を見て触れて、また担当者から説明を聞くことでハイテク機器も親しみやすい機器に変わりました。安全に安心した在宅療養が継続できるように病院全体で取り組んでいきます。

## 神奈川県立子ども医療センターの基本理念と基本方針

### 1 基本理念

子どもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

### 2 子ども向け基本理念 — わたしたちのちかい —

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませます。

### 3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行います。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

## 神奈川県立子ども医療センター・研修のご案内

### 第78回 学術集談会

- ☆ 日時：平成21年12月12日(土) 14:00～
- ☆ 場所：かながわ県民センター
- ☆ テーマ：こどもの健やかな成長を願って ～予防の観点から
- ☆ お問い合わせ：総務課 小柴

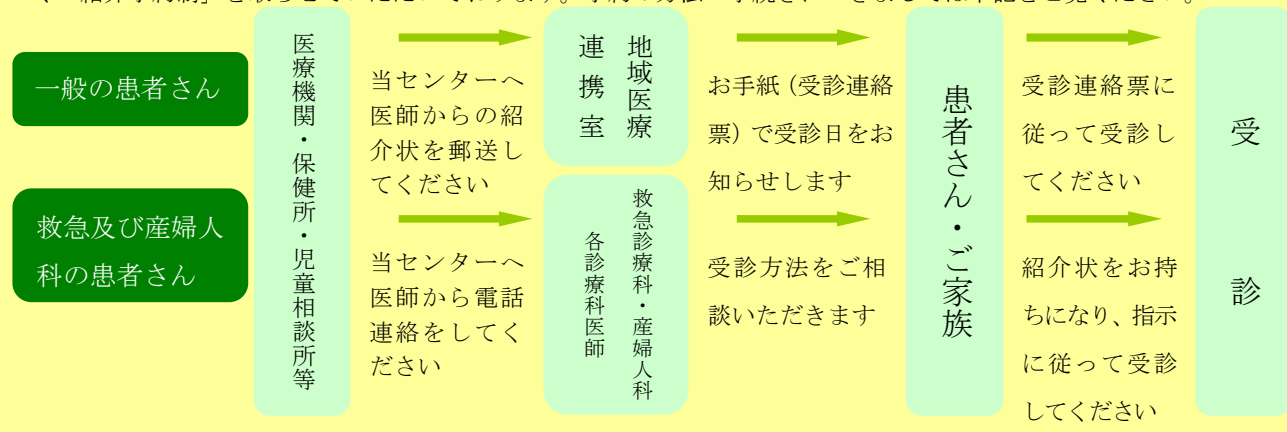
### 第10回 ハートキッズセミナー

- ☆ 日時：平成22年3月13日(土) 13:00～(予定)
- ☆ 場所：当センター体育館

詳細はホームページに掲載予定です

## 【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立子ども医療センター 地域医療連携室  
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo>

